

科目名	英語科教育法1(週2回)			ナンバリング	EDU251	授業形態	講義
対象学年	3年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	4単位
代表教員	川又正之	担当教員					

授業の概要	この「英語科教科教育法1」の授業では、まず、どのような材料を使用して英語を教えたらいのか、という「教材論」の観点から、特に日本人の中学生を対象とした英語教材の作成を試みる。受講者は、言語材料(音声、文法、語彙、題材等)について、学習指導要領の内容をきちんと理解した上で、中学生に適切な教材を実際に作成することが求められる。作成した教材については最後に授業内で発表し、レポートにまとめて提出してもらう。						
到達目標	1. 日本の中学校や高等学校における英語教育を中心とし、教職に就く場合に必要な知識と技術を身につける。2. 教育現場において問題に直面した際、理論と実践の両面からアプローチし、それに対応できるような授業力・実践力の基礎を身につける。3. 「族際補助語(国際語)」としての英語の意義を踏まえつつ、その背景にあるさまざまな言語や文化を認めて尊重し合い、対等で公平な相互関係を作り上げていくことの重要性を意識した授業ができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	教科書やプリント等の指定された箇所をよく読んでくること。また、自分の考えをまとめ、発表できるように準備しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 学習指導要領の概要を理解している。2. 学習指導要領に基づいて、中学生向けの教材を作成することができる。3. 作成した教材を発表することができる。	1. 学習指導要領の詳細を深く理解している。2. 学習指導要領に基づいて、新しい独自の工夫や、内容のあるコミュニケーション活動を多く盛り込んだ中学生向けの教材を作成することができる。3. 作成した教材を、実演等をまじえながら、効果的、かつ、わかりやすく発表することができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					60%
宿題・授業外レポート	○	○					40%
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	提出された課題、実際に作成された教材については、コメントをつけて返却する。
---------------	---------------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	はじめに	授業の目的や進め方、使用教科書、講義計画等について説明する。	
	第2回	学習指導要領について－総論	学習指導要領とはどのようなものか、について、歴史的な経緯を踏まえて説明する。	
	第3回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－音声(1)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「音声」について説明する。	
	第4回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－音声(2)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「音声」について説明する。	
	第5回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－文法・文構造(1)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「文法・文構造」について説明する。	
	第6回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－文法・文構造(2)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「文法・文構造」について説明する。	
	第7回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－語彙(1)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「語彙」について説明する。	
	第8回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－語彙(2)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「語彙」について説明する。	
	第9回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－題材(1)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「題材」について説明する。	
	第10回	学習指導要領(中学校・外国語編)について－題材(2)」	学習指導要領(中学校・外国語編)の「題材」について説明する。	
	第11回	中学校用の検定教科書(英語)の分析(1)－ New Horizon (東京書籍)	New Horizon を「音声」と「文法・文構造」の観点から分析する。	
	第12回	中学校用の検定教科書(英語)の分析(2)－ New Horizon (東京書籍)	New Horizon を「語彙」と「題材」の観点から分析する。	
	第13回	中学校用の検定教科書(英語)の分析(1)－ New Crown (三省堂)	New Crown を「音声」と「文法・文構造」の観点から分析する。	
	第14回	中学校用の検定教科書(英語)の分析(2)－ New Crown (三省堂)	New Crown を「語彙」と「題材」の観点から分析する。	
	第15回	中学校用の検定教科書(英語)の分析(1)－ Total (学校図書)	Total を「音声」と「文法・文構造」の観点から分析する。	
		試験		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	中学校用の検定済教科書(英語)の分析(2)－ Total (学校図書)	Totalを「語彙」と「題材」の観点から分析する。	
	第17回	中学生用の英語教材の作成－音声(1)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第18回	中学生用の英語教材の作成－音声(2)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第19回	中学生用の英語教材の作成－文法・文構造(1)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第20回	中学生用の英語教材の作成－文法・文構造(2)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第21回	中学生用の英語教材の作成－語彙(1)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第22回	中学生用の英語教材の作成－語彙(2)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第23回	中学生用の英語教材の作成－題材(1)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第24回	中学生用の英語教材の作成－題材(2)	グループに分かれて教材作成を行う。	英和・和英・英英辞典等を用意。
	第25回	作成した教材の発表および問題点の検討(1)	作成した教材を発表(グループA)し、問題点を全体で検討する。	
	第26回	作成した教材の発表および問題点の検討(2)	作成した教材を発表(グループB)し、問題点を全体で検討する。	
	第27回	まとめ－よりよい教材とは	教材作成の体験を踏まえて、日本人の中学生を対象としたよりよい教材とはどのようなものであるかを考察する。	
	第28回	さまざまな教材(1)－教科書ガイド、ワークブック、ドリル	検定済教科書に準拠する教材について取り上げる。	
	第29回	さまざまな教材(2)－音声CD、DVD、Web	検定済教科書に準拠する教材について取り上げる。	
	第30回	小テスト	どの程度教材について知識を身につけ、自身の教材に対する考え方を深めることができたかどうかを確認する小テストを行う。	
		試験		
授業の進め方	講義(第1回～10回)、検定済教科書の分析(第11回～16回)、グループによる教材作成(17回～24回)という流れで進める。			
授業外学習の指示	学習指導要領の該当箇所にあらかじめ目を通しておくこと。教材作成については、グループ内で役割を分担し、授業時以外にも各自で作成できるようにして下さい。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)			

教科書	望月昭彦他 2011.『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館書店 米山朝二他 2013.『新版 英語科教育実習ハンドブック』大修館書店その他、中学校(外国語編)および高等学校(外国語編・英語編)の学習指導要領解説書、中学校の検定済教科書など。 ※詳しくは初回の授業時に指示するので、受講希望者は必ず出席すること。
参考書	授業時に指示する。
参考URLなど	
その他	